

■児童・生徒の学力の状況

- 「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では「自分の考えを条件に合うように書くこと」や「登場人物の心情を読み取ること」の平均正答率がその他の問題と比較すると低いことが分かった。また算数では、基本の部分は理解できているが、問われ方が変わると正しく読み取れない様子が見られた。
- 学習に意欲的に取り組む児童は多いが、問題解決に向けて学習の見通しをもって論理的に考えることや自分の意見をもてる児童が少ない。また、考えたことを発表する等の表現する力は十分に育っていない。
- 思考を要する課題や繰り返し取り組む学習課題に根気よく取り組むことに苦手意識のある児童がいる。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題
※「読み解く力」の育成を踏まえて

- 児童が見通しをもち、主体的に課題解決をする力、表現する力を身に付けさせるため、自ら問いを見いだすことができる教材や学習活動の工夫をすること。また、本時のめあてが達成できたかを児童自身が振り返る時間の設定、そして視写や共書きを通して、言葉の意味を考えながら書くことに慣れさせ、ノート活用を重視した工夫が必要である。
- 児童一人ひとりが自分の考えを表現し、友達と意見交流できるような場面を設定すること、そして対話を通して互いを高め合い、深い学びにつなげる指導を工夫する必要がある。またその基盤となる言語能力の育成が課題である。
- 基礎的・基本的な学力を向上させるため、朝の学習タイムや補習教室等の充実、家庭学習との連携を図っていく必要がある。
- タブレット端末を含めたICT機器を効果的に活用した授業展開を行っていく必要がある。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 学びのゴールとなる具体的な「めあて」や「振り返り」を重視した板橋区授業スタンダードに基づいた授業を行い、基礎的・基本的な学力の定着の育成を図る。
- 朝の学習タイムや補習教室などを活用して、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を図る。
- 読み解く力を育成するため、6つの基礎的読解力(係り受け解析・照応解決・同義分判定・推論・イメージ同定・具体例同定)を意識した授業の日常化を図る。
- 児童が習得した知識を活用して考える力や、自分の思い・考えを表現し伝え合う力を育むために、体験的な学習や問題解決的な学習を重視する。児童が主体的・探究的に学習に取り組めるような授業改革を進め、思考力・判断力・表現力の育成を図る。
- 児童一人ひとりが自分の考えを表現し、ペアやグループの少人数交流、全体で相互に意見交流しながらよりよい考えを作り出ししていく協働学習を推進する。課題選択や学習の個性化を図り、個別最適な学びを充実させる。また、探究的な学習や体験活動を通じて、子ども同士、あるいは地域の方々と連携した協働的な学びの充実を図る。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1 板橋区授業スタンダードの徹底	視点2 読み解く力の育成	視点3 総合的な学習の時間との連携
○各教科等の授業において、「具体的なめあての提示→自力解決→集団解決の時間の確保、→めあてに対しての振り返り」等の学習の流れを定着させる。 ○主体的・対話的な学びをめざし、児童がじっくりと考え学び合う場の設定を工夫する。	○基礎的読解力の6分類等の明確な視点をもって、教科書等を読み取る場面を設定する。 ○INPUT→THINK→OUTPUTの学習過程を意識した授業展開を工夫する。特に児童が主体的にOUTPUTする場面を設定する。 ○教科書等の文章・図表等や語句(学習語彙)・用語の確認等、事前に教科書分析を行う。	○単元配列表を参考に、各教科等の学びと総合的な学習の時間の学びをつなげていくことができるように、学習計画を立てる。 ○地域人材を活用し、体験的な学びの充実を図る。そして地域の人々と交流を深める中で、地域を学び地域と連携した教育活動を実践していく。

■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

小中一貫教育の推進 板橋のiカリキュラムの活用	カリキュラム・マネジメントの推進	ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現
○「自律と自立」をめざす。特別の教科道徳では「善悪の判断、自律自由と責任」を重点指導項目とし自ら判断し責任ある行動のとれる児童を育成する。 ○ユネスコスクール加盟校として、ESD、SDGsを踏まえた環境教育を行っていく。総合的な学習の時間で緑のカーテン等を中心に、各学年で設定したテーマを基に問題解決学習を実施する。	○総合的な学習の時間を中心としたカリキュラムマネジメントを進めていく。例えば国語科では、自分の考えを伝え、調べたことを報告する学習を、算数科では、グラフや表、データ活用の学習等を活かして、情報を整理・分析してまとめ・表現していくことができるよう関連付けた指導を行う。また理科や社会科では、探究的な学習の過程において課題の解決に必要な知識を身に付けることができるよう、関連を意識して授業計画を工夫する。	○一人一台端末を活用し、情報収集や意見の交流、発表用の資料作成等児童自身が場面や方法を選んで取り組むことができるように、ICT機器の特性を理解して、普段の授業に計画的に取り入れていく。

